

(7) Stockholms universitet (ストックホルム大学 : Stockholm University)



1) 概要について

ストックホルム大学は、スウェーデンの首都ストックホルムにあり、1877年にストックホルムカレッジとして始まり、1960年に国立の総合大学となった。法学、人文学（歴史哲学系、言語系）、社会科学、自然科学（数・物理系、化学系、生物系、地球物理系）の4学部75学科がある。教員数約6,000人、学生数約50,000人とスウェーデンで最大規模の大学である。

この大学に在籍する障害のある学生の内訳は、表3に示す通りである。

2) 障害学生支援について

われわれの訪問では、まずスウェーデン特筆すべきノーマライゼーションの典型例である聴覚障害者に関するバイリンガル教育について、言語学教室の教員へのインタビューを行ない、その後に障害学生支援コーディネーターと面会し、この大学における障害学生支援の実状についてインタビューを実施した。

まず、言語学科の教員へのインタビューにおいては、スウェーデンにおけるノーマライゼーションの歴史と現状、特にスウェーデンにおける聴覚障害者の第二外国語としての手話公認のいきさつなどをうかがった。

言語学科には、聴覚障害のある教員が9名もおり、日常的に手話が交わされる環境が整っていることがうかがえた。(図28参照)

一方、スウェーデンにおいては、人工内耳も普及しており、聴覚活用に力点を置いた支援の必要性があることもうかがえた。

高等教育支援に関しても、専門用語をどのように手話に変換していくのかをうかがったが、この点に関しては専門用語をろう者が主体的に共通手話として創作していき定着しているとのことであった。このことから、聴覚障害者に対し優れた高等教育を保障するには、いわゆる伝統的手話に拘泥するのではなく、むしろ手話と母国語（スウェーデン語や日本語）との融合を図る必要性があることがという点で、スウェーデンの聴覚障害教育は非常におおらかであるという印象を受けた。

コーディネーターへのインタビューでは、ストックホルム大学のコーディネーターが、1993年からスウェーデン全大学間のネットワークを統括する調整ユニットの役割を担っていることが紹介された。



図 28. 言語学科のスタッフの写真

表 3.

2006-2008の統計 大別的な障害学生統計 以下は、スウェーデンの高等教育機関のひとつとして障害学生支援コーディネーターと接触のあった在 student と卒業生の数のみを示している。									
	2006※			2007※※			2008※※※		
	女性	男性	計	女性	男性	計	女性	男性	計
読字障害および特殊な学習困難	1,563	834	2,397	1,590	962	2,552	1,879	1,066	2,945
視覚障害	122	69	191	109	64	173	123	80	203
運動障害	320	110	430	305	121	426	310	111	421
通訳者の必要な聾者	112	55	167	88	49	137	114	49	163
通訳者を必要としない聾者(教員が手話使用可能)	17	7	24	12	2	14	15	4	19
学習困難および学習障害	273	205	478	317	254	571	423	315	738
難聴(通訳者を必要としない)	115	72	187	99	66	165	115	65	180
その他	164	56	220	172	80	252	173	83	256
小計	2,686	1,408	4,094	2,692	1,598	4,290	3,152	1,773	4,925
それ以外の支援形態を必要とはしていなくてもコーディネーターと修学計画について接触のあった学生	563	541	1,104	690	475	1,165	733	476	1,209
総計	3,249	1,949	5,198	3,382	2,073	5,455	3,885	2,249	6,134
※2006年の31名中女性が23名、男性が8名									
※※2007年の34名中女性が21名、男性が13名									
※※※2008年の41名中女性が25名、男性が16名									

2006年から2009年までストックホルム大学に在学した障害学生の内訳は表3, 4のとおりであるが, そうした学生に対し行なっている支援は, 表5のように多岐にわたっている。

また, こうした学生に対する予算的裏付けとしては, 前年経費から予算案を作成し, 配分された額の調整にコーディネーターがあたっている。コーディネーターは毎年年次報告を提出しており, その中に今後の課題や各大学の共同作業の内容を記している。

スウェーデンの大学全体では, 約95~97%がコーディネーターを配置しており, 各大学は当該予算の0.3% (固定配分) を障害学生支援のために資金として活用することとなっている。

ストックホルム大学には, 学部レベルでろう・難聴60名, 視覚障害24名, 肢体不自由53名, ディスレクシア318名, 自閉症・アスペルガー55名, 精神疾患29名, その他12名の障害学生が, 大学院でろう・難聴4名, その他4名の障害学生が在籍している。提供している支援内容はオレブロ大学とほぼ同様の内容であるが, その他にディスレクシアのある学生に対するサポートとして, スペル修正や文法修正, ディスレクシアの学生向けの入門コース, 学習方法や時間管理の仕方などのプログラムを有している。

2008年の統計では, スウェーデン全体でディスレクシア2945名, 視覚障害203名, 移動障害421名, ろう182名(内, 通訳付き163名, 通訳無:教師が手話可19名), 難聴180名, 学習障害738名, その他256名の障害学生が大学で学んでいるということであった。

高大連携に関しては, スtockホルム大学では, 高校へ出かけていっての大学紹介やオープンキャンパスなどを利用して障害学生へのアピールを行っているという。特に(障害当事者の) 専門団体からの照会に応じて直接生徒本人にあったり, 高校からの訪問を受け入れたりしている。

表 4.

2009年のストックホルム大学における障害学生数	
学部	
難聴および聾	60
視覚障害	24
肢体不自由	53
読字障害	318
自閉およびアスペルガー	55
精神障害	29
その他(エPILEPSY、MS)	12
(女性:366、男性:185)	
大学院	
難聴および聾	4
その他	4
(女性:6、男性:2)	
合計	559

表 5.

障害学生への支援形態			
ノートテイク			
試験時間の延長			
試験形態の変更			
試験および評価のためのコンピュータ使用の許可			
盲人用トーキングブック(スウェーデン点字図書館から)			
付加的なスーパービジョンおよび指導			
手話通訳			
スペルおよび文法チェック			
補助			
技術的援助			
誘導ループ			
試験および修学のための個室使用			
コンピュータ接続用の個室使用			
特別なソフトウェア使用のための個室使用			
調節可能な椅子のある個室使用			
調節可能な机のある個室使用			
読字障害のある学生に対する概説			
技術と時間管理の学習コース			



図 29. 厳寒のストックホルム大学の図書館